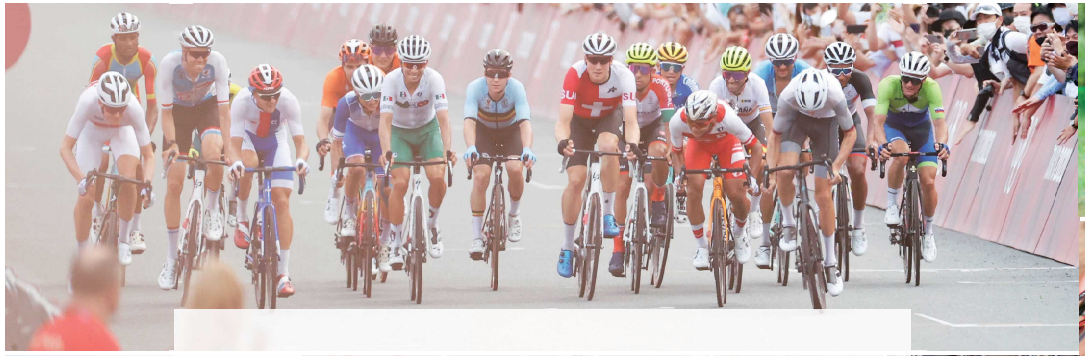
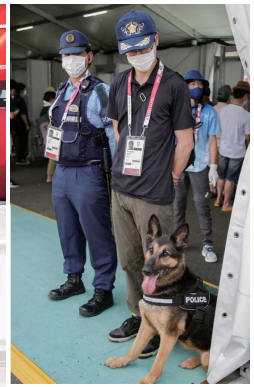


「オリンピック・パラリンピック」という頂。
人生をかけた戦い、夢の実現、掴んだ栄光。
その瞬間に立ち会った歓声と感動。
特別なときの記憶は、すべての人の希望となって、未来へとつながっていく。

頂を仰ぎ、頂に挑み、頂を知った東京2020大会。
2021年の夏、世界の頂を越え、次のステージへ。
これまでの軌跡を超えて、新たな針路へ進む。
記録と記憶の伝承を、今を超越る力にして。



INDEX

<東京2020大会のあらまし>
4　静岡県開催までの道のり
6　大会概要
8　新型コロナウイルスとの闘い

<聖火リレー>
9　東京2020聖火リレー
10　オリンピック聖火リレー
12　パラリンピック聖火リレー

<静岡県内開催自転車競技>
14　ロード
16　マウンテンバイク
18　トラック
20　静岡県ゆかりの選手の活躍

<大会開催準備・運営>
22　機運醸成
24　世界とのつながり
25　地域の盛り上がり
26　ラストマイルでの取組
27　人材育成・教育
28　都市ボランティア

<大会が遺したもの>
30　レガシー継承

<大会を終えて>
31　開催実績

東京2020大会
静岡県開催までの道のり

2013

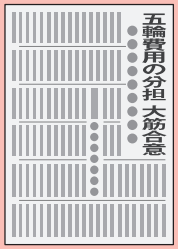
2014
- 1月 大会組織委員会設立
- 12月 IOCが「オリンピックアジェンダ2020」採択

2015
- 8月 県内最初の事前キャンプ覚書締結

2016
- 4月 IPCがパラリンピック自転車競技（トラック）の会場を伊豆に変更承認

2013
9月 IOC総会で2020年オリンピックの東京開催が決定

2015
12月 IOCがオリンピック自転車競技（トラック、マウンテンバイク）の会場を伊豆に変更承認

2017


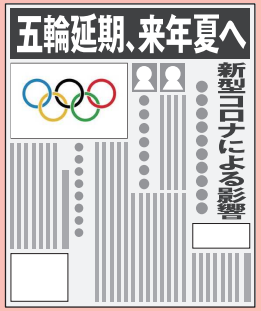
5月 東京2020大会の役割（経費）分担が4者間合意

2018

2020
- 1月 WHOが新型コロナウイルスの検出を確認
- 12月 国等による「コロナ対策調整会議」で中間整理を発表

2018
2月 IOCがオリンピックロードの会場を富士スピードウェイに変更承認

3月 IPCがパラリンピックロードの会場を富士スピードウェイに変更承認

2020


3月 東京2020大会の1年程度の延期、オリンピック聖火リレーのスタート中止を発表

4月 初の緊急事態宣言が7都府県に発令（その後全都道府県に拡大）

2017
- 4月 オリンピック・パラリンピック推進課設置

2019
- 2月 マウンテンバイク競技会場整備に関する3者協定締結（3月～工事着手）
- 4月 オリンピック・パラリンピック調整室設置

2021
- 3月 5者協議により海外からの一般観客の受入れ見送り決定
- 6月 5者協議によりオリンピック観戦客の上限決定
- 8月 4者協議によりパラリンピックの全ての会場で無観客開催とすることを決定

2018
3月 都市ボランティアの募集開始

2019
7月 ロードテストイベント開催

10月 マウンテンバイクテストイベント開催

2020
7月～9月 「新たな出発」期間（WEBスタンプラリー）

2021
6月 オリンピック聖火リレー県内実施

8月 パラリンピック聖火フェスティバル（リレー）県内実施

2021
3月 全国のオリンピック聖火リレースタート

7月～8月 オリンピック開催
8月～9月 パラリンピック開催

2021

大会概要

世界中がコロナ禍という困難な状況の中、大会史上初の延期、無観客の決断を経て、これまでとは異なる形での開催となった東京2020大会。その規模や内容はどのようなものだったのか。

大会ビジョン

スポーツには世界と未来を変える力がある。

1964年の東京大会は、日本を大きく変えた。
2020年の東京大会は、
「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、
「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、
「そして、未来へつなげよう（未来への継承）」
を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

大会基本情報

	オリンピック競技大会	パラリンピック競技大会
正式名称	第32回オリンピック競技大会（2020／東京）	東京2020パラリンピック競技大会
競技日程	2021年7月23日（金・祝）～8月8日（日・祝）17日間	2021年8月24日（火）～9月5日（日）13日間
競技数・種目数（1964年東京大会）	33競技339種目（20競技163種目）	22競技539種目（9競技144種目）
参加国・地域数（1964年東京大会）	206カ国・地域（93カ国・地域）	163カ国・地域（21カ国・地域）
選手数	11,417人（205NOC＋難民選手団）	4,403人（162NPC＋難民選手団）※過去最多
会場数	43会場	21会場

東京2020エンブレム

TOKYO 2020　TOKYO 2020 PARALYMPIC GAMES

組市松紋（くみいちまつもん）

「市松模様」を日本の伝統色の藍色で表現。形の異なる3種類の四角形を組合せ、「多様性と調和」のメッセージを込めた。

東京2020マスコット

オリンピックマスコット

「未来」と「永遠（とわ）」というふたつの言葉を結びつけて生まれた。

パラリンピックマスコット

桜を代表する「ソメイヨシノ」と非常に力強いという意味の「So mighty」から生まれた。

ピクトグラム

全55競技を表現。静岡県開催の自転車競技ピクトグラムは全5種類。

オリンピック

自転車競技 ロード

自転車競技 マウンテンバイク

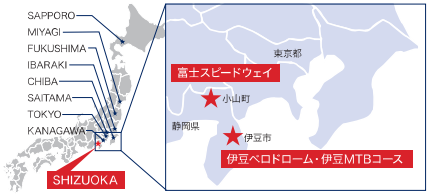
自転車競技 トラック

パラリンピック

自転車競技 ロード

自転車競技 トラック

競技会場



多くの既存施設も活用し、東京都内外の43会場で開催。静岡県は、駿東郡小山町の「富士スピードウェイ」、伊豆市の「伊豆ベロドローム」「伊豆MTBコース」が会場に選ばれた。

世界に称賛された、静岡県の競技会場

オリンピックアジェンダ2020の採択を受け、コスト削減を目的とした既存施設の活用が推進された結果、2015年12月には、トラックとマウンテンバイクの「伊豆ベロドローム」と「伊豆MTBコース」での開催が決定した。また2017年4月に国際自転車競技連合（UCI）からロードレースの「富士山周辺」へのコース変更要望があったことを受け、2018年8月には武蔵野の森公園（東京都）をスタート、富士スピードウェイをゴールとするコースが決定された。競技の難易度を上げるとともに、日本開催を象徴する富士山を背景にレースを行うことで、競技の魅力を最大限に伝えるという目的があった。こうして雄大な自然や美しい景観、充実した既存施設を持つ“ふじのくに”静岡県が、オリンピック・パラリンピック競技大会という世界最大のスポーツイベントの開催地となった。

東京 2020 大会ロードコース
（写真は 2021 年 5 月ツアーオブジャパン富士山ステージのもの）

富士山会場

富士スピードウェイ

駿東郡小山町中日向694
自転車競技／ロード（ゴール会場）
大会開催時収容人数　22,000人

首都圏から最も近い、日本を代表する国際サーキットで、50年以上の歴史を持つ。全長4,563mの最新の国際レーシングコース。これまでも数多くのビッグレースが開催されてきた、大規模な国際大会に適した施設。

伊豆会場

伊豆ベロドローム

伊豆市大野1826
自転車競技／トラック
大会開催時収容人数 3,600人

2011年に日本サイクルスポーツセンター内に開業した、屋内型自転車トラック競技施設。自転車トラック競技の世界標準仕様である「屋内型板張り250mトラック」を、日本で初めて装備した。シベリア松を使用した走路は、最大傾斜45度。

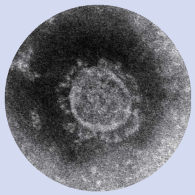
伊豆 MTB コース

伊豆市大野1826
自転車競技／マウンテンバイク
大会開催時収容人数 11,500人

全長約4km・高低差約150mのオフロードコース。自然環境を最大限に生かしたコースには、富士山を眺めるビューポイント、日本の伝統文化や伊豆にちなんだ名前が付けられたポイントがある。急坂や岩場などを利用した、走行に高度な技術を必要とする、世界トップレベルの難コース。

新型コロナウイルスとの闘い。大会史上初の延期

緊急事態宣言下での開催、何もかもが異例ずくめの大会。準備・運営は、その全てが初めてのことであり、主催者の大会組織委員会をはじめ競技開催自治体である静岡県にとっても大きな試練であった。



「新型コロナウイルス画像」
（2020年1月31日）
提供:国立感染症研究所

開催に向けたロードマップ

2020年2月頃から国内外で新型コロナウイルスの感染が広がり、3月11日、世界保健機関（WHO）が「パンデミック」を表明。世界中から大会の開催を不安視する声が相次ぐ中、3月24日、安倍晋三首相が、森喜朗大会組織委員会会長、小池百合子東京都知事、橋本聖子東京オリンピック・パラリンピック担当大臣同席のもと、バッハIOC会長と電話会談、大会の延期が発表された。大会延期が発表されると、静岡県も3月30日、「東京オリンピック・パラリンピック静岡県推進本部幹事会」を開催。大会の延期を報告するとともに、課題や問題点を整理し、適切な対策を講じるための準備を始めた。同日、大会の新日程が示され、正式に約1年の延期が決まった。

2021年、より感染力の強い変異株への対応が課題となる中、「事前キャンプ」については、受入れ市が「受入マニュアル」等を作成し準備を進めたが、中止となる事案が相次いだ。オリンピック聖火リレーも、浜松市内ルートでは、市街地での走行をとりやめ、一部ランナーの辞退に伴う変更等も生じた。

大会開催に関しては、5者協議（IOC、IPC、大会組織委員会、東京都および国）により、海外からの一般観客の受入れを断念することが決まり、その後、観客数の上限が「収容定員50%以内で1万人」と決定した。しかし、感染拡大は収まらず、東京都への緊急事態宣言発令を目の前にした7月8日、東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県で行われるオリンピック競技について無観客開催が決定された。その後、北海道、福島県も追って無観客の方針を決めた。

静岡県は数少ない有観客の会場となったが、県にも有観客での開催を不安視する声が多く寄せられ、職員はその対応に追われた。自転車競技開催に向けての機運醸成も手法や時期を工夫しながらの実施となり、都市ボランティアへの研修もオンラインを活用したものへと変更された。大会開催時は観戦客への感染防止の徹底が最重要課題となり、直行直帰の呼びかけを行った。予定していたおもてなしの取組も充分には実施できず、ライブサイトも、専門家の助言を踏まえ、県内6市から2市の実施に縮小された。学校連携観戦プログラムでは、当初の予定人数の10分の1程度の参加者となった。

その後のパラリンピック聖火フェスティバルでは、採火式、集火式の規模の縮小や公道走行中止に伴う代替措置等がとられた。パラリンピック全競技については、無観客（学校連携観戦を除く）開催とすることが決定した。新型コロナウイルスの影響を受けなかった事業、取組はないといっても過言ではない。

史上初となる大会の延期、観客数制限と無観客での開催、幾多の苦難を乗り越えて実現した東京2020大会は、これまでとは違う形でありながら、多くの人に数々の感動を与えた。静岡県ゆかりの選手の活躍に、静岡県民も大いに沸いた。新型コロナウイルスと闘いながら行われた国際的大規模スポーツイベントは、静岡県にとっても貴重な経験であり、スポーツの聖地づくりを行う上で大きな財産となった。

東京2020聖火リレー

我が街を駆け抜けた聖火リレー
笑顔と歓声に包まれたリレーの実現まで

聖火リレー実行委員会の様子

安全・安心な聖火リレー実現のために

東京2020オリンピック・パラリンピック聖火リレーを実施するにあたり、各都道府県では実行委員会を設置し、聖火リレーの準備と実施運営を担った。静岡県でも知事を会長とする「東京2020オリパラ聖火リレー実行委員会」において、大会組織委員会から示された条件に沿い、ルートやランナーの選定、リレー運営、セレモニーの実施等を調整したほか、コロナ禍での実施の課題に対応した。聖火リレーは国民全体の大きな関心事であったことから、聖火リレーの調整状況は連日テレビや新聞で報道され、多くの県民の反響を呼んだ。

2021年6月にオリンピック、8月にパラリンピック聖火リレーが無事に実施されるまでの約3年半、様々な変更を余儀なくされながらも、多くの関係者が調整に奔走し、安全・安心な聖火リレーを実現した。結果として、オリンピック・パラリンピックともに公道で聖火リレーを実現できたのは、本県が全国で唯一となったが、それは多くの関係者の協力による奇跡のような結果だった。

聖火ランナー募集サイト

前日ミーティング

希望の道をつないだオリンピック聖火リレー

2021年6月23日から25日の3日間で、県内22市町25区間、274人のランナーがつないだ静岡県のオリンピック聖火リレー。

本県が聖火リレーの実施で目指した「県が誇る地域資源の価値再認識と国内外に向けた魅力発信」、「県内の誰もがオリンピックに参加（走る・見る・応援・ボランティア）することによる地域や世代を超えた一体感の創出」、「オリンピックが始まる期待感の醸成と自転車競技開催、事前キャンプ誘致等を通じた本県スポーツの普及」の実現につながる場所を巡るルートを選定。聖火ランナー274人中、本県選出の75人の選考では、選出テーマを「静岡県で夢をかなえる（た）人～見る者・集った者の心に夢の火を灯すランナー」として、県内各市町にゆかりあるランナーを選出した。4,212件の応募から約70倍の選考を通過した一般ランナー61人、PR（著名人）ランナー4人、次代に託す夢を担う若者10人のグループランナー1組が静岡県ランナーとして選ばれた。

1年の延期を経て晴れてスタートした聖火リレーでは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、多くの都道府県が公道リレーを中止するなど無念な選択を迫られる中、本県でも、沿道密集回避のための走行箇所再調整を行い、浜松市では市街地である中区の走行を中止して北区にルートを一本化するなど、多くの影響を受けた。

難しい調整が続いたリレー運営であったが、当日は、数百人の関係者、約2,300人ものボランティアの従事のもと、約102,000人の沿道観覧客等の温かい声援を受けながら、無事に聖火がつながれた。

多くの人に光を届けたパラリンピック聖火リレー

2021年8月17日に実施したパラリンピック聖火フェスティバル（聖火リレー）。オリンピックとパラリンピックの両聖火を通じ、より多くの県内地域に聖火をつなぎ、一人でも多くの県民が聖火を直接目にすることができるよう検討した。

県内を走行した127人のランナーのうち、本県選出者は48人。オリンピック聖火リレー同様の選出テーマに沿い、743件の応募から、約20倍の選考を通過した37人の一般ランナーと、2人のPR（著名人）ランナー、そして本県が進める普通高校と特別支援学校分校の「共生・共育（インクルーシブ教育）」実践4校から2組のグループランナーを選考。共生社会実現に向けたメッセージの発信を託した。

オリンピック聖火リレーと同様に、コロナ禍における実施では、公道リレーの一部中止やセレモニーの観覧制限等、様々な制約を受けたほか、実施直前の自然災害にも苦しめられた。困難に直面し続けたリレー運営ではあったが、多くの人の支えによって難しい調整を乗り越え、多くの人の思いにより達成された。

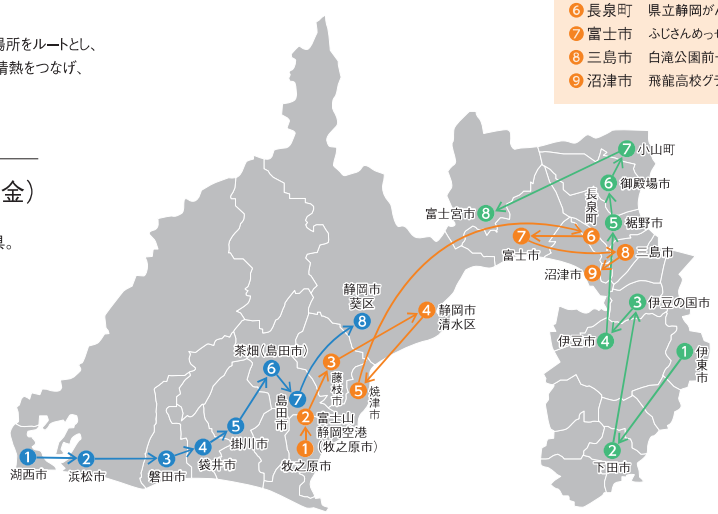
オリンピック聖火リレー

Hope Lights Our Way／希望の道を、つなごう。

東京2020オリンピック聖火リレーは、
「Hope Lights Our Way／希望の道を、つなごう。」をコンセプトに、
2021年3月25日、福島県を出発。
日本全国47都道府県を巡り実施した。
世界遺産や名所・旧跡、地域に親しまれる場所など魅力ある場所をルートとし、
121日間に全国約1万人の聖火ランナーを通じて、喜びや情熱をつなげ、
人々に希望の道を照らした。

静岡県開催
2021年6月23日（水）～25日（金）

47都道府県中41番目に聖火をつないだ静岡県。
県内を西から東へ、
静岡県にゆかりある274人の聖火ランナーが
22市町25区間のルートを聖火でつないだ。



※矢印は走行市町順を示すもの

Day 1　6月23日（水）

走行ルート

1. 湖西市　新居関所跡前→みなと運動公園付近
2. 浜松市北区　プリンス岬 →（天竜浜名湖鉄道）→みをつくし文化センター
3. 磐田市　磐田市役所→見付天神入口付近
4. 袋井市　浜松学院大学付属愛野こども園前→エコパスタジアムメインスタンド前
5. 掛川市　掛川城三の丸広場→掛川城大手門
6. 茶畑（島田市）　茶畑→ふじのくに茶の都ミュージアム前
7. 島田市　川会所前（川越遺跡）→おびゴ通り
8. 静岡市葵区　静岡浅間神社石鳥居前→駿府城公園

※新型コロナウイルス感染拡大により、浜松市では北区に一本化して聖火リレーを行った。

県内の出発地点となったのは湖西市「新居関所跡」。コロナ禍での実施となったため、直前に実施形態を再調整した浜松市では、中区のランナーを北区に統合、プリンス岬（五味半島）を21人が走り、西気賀駅からは、県内唯一の特殊走行として天竜浜名湖鉄道に乗車した。2019年にラグビーワールドカップが開催されたエコパスタジアム内では、本県PRランナーの百田夏菜子さん（浜松市出身）が走行。茶畑が広がる牧之原台地もランナーが駆け抜けた。初日のゴールとなったのは静岡市葵区。最終ランナーとして、次代に託す夢を担う若者10人のグループランナーが走行した。

Runner Voice

多くの人が応援してくれて、公道を走るのが楽しかったです。たくさん取材を受けて、（828gと）小さく生まれて、これまでお世話になった人に感謝の気持ちを伝えることができました。

Day 2　6月24日（木）

走行ルート

1. 牧之原市　総合健康福祉センター「さざんか」前→静波海岸自由の女神像前
2. 富士山静岡空港（牧之原市）　富士山静岡空港貨物ターミナル地区前→石雲院展望デッキ
3. 藤枝市　勝草橋公園前→藤枝成田山前
4. 静岡市清水区　駿河湾フェリー→清水駅前交差点
5. 焼津市　焼津神社前→アクアスやいづ
6. 長泉町　県立静岡がんセンター正面玄関前→北小学校正門前
7. 富士市　ふじさんめっせ→中央公園芝生広場前
8. 三島市　白滝公園前→三嶋大社内宝物館前
9. 沼津市　飛龍高校グラウンド入口前→プラサ ヴェルデ

牧之原市からスタートした2日目。空の玄関「富士山静岡空港」では、島田市出身の俳優、別所哲也さんが石雲院展望デッキでゴール。静岡市清水区では、駿河湾フェリー船上で女優の広瀬アリスさん（静岡市出身）がミニセレブレーションに登場した。長泉町に移動すると、県立静岡がんセンターから出発し、医療関係者に見送られた。伊豆半島の玄関口となる沼津市が2日目のゴール地点。バルセロナオリンピック水泳平泳ぎ金メダリストの岩崎恭子さん（沼津市出身）が、最終ランナーとして聖火を運んだ。

Runner Voice

今までお世話になった方々、地域の方々に感謝を込めて走ることができました。（聖火ランナーを経験し）今までやらなかった新しいことにチャレンジしてみようと思う様になりました。

Day 3　6月25日（金）

走行ルート

1. 伊東市　伊東マリンタウン→野間自由幼稚園前
2. 下田市　開国記念碑前→下田市民文化会館
3. 伊豆の国市　韮山反射炉芝生広場→韮山時代劇場ひだまり広場
4. 伊豆市　修善寺小学校前→修善寺総合会館
5. 裾野市　陸上競技場内トラックメインスタンド正面→トヨタ自動車東富士研究所
6. 御殿場市　秩父宮記念公園→二の岡公民館南側交差点付近
7. 小山町　豊門公園内→健康福祉会館
8. 富士宮市　富士山世界遺産センター大鳥居前→富士山本宮浅間大社

最終3日目、伊東市の出発式では中高生の合唱と吹奏楽演奏の中、最初のランナーがスタート。美しい海岸沿いや駅前通りを走り抜けた。自転車競技開催会場の伊豆市では修善寺温泉街を走行。歴史と自然が感じられる美しい情景の中を聖火がつながれた。本県内ルートのゴールとなったのは富士宮市。「富士山世界遺産センター」大鳥居前からスタートし、富士山本宮浅間大社までの同市中心部を駆け抜けた聖火は、最終ランナーであるリオパラリンピック陸上走り幅跳び銀メダリスト山本篤さん（掛川市出身）へ。山本さんから聖火皿への点火が行われ、静岡県オリンピック聖火リレーは、厳かに締めくくられた。

Runner Voice

今までは「どうせ無理」「どうせかなわない」など、挑戦することを避けてきたことが多々ありましたが、（聖火ランナーを経験し）思いがかなうことの可能性を信じられるようになりました。

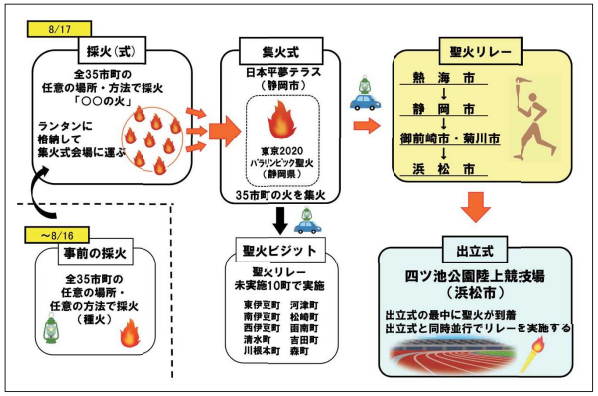
パラリンピック聖火リレー

Share Your Light／あなたは、きっと、誰かの光だ。

パラリンピック聖火リレーは、「Share Your Light／あなたは、きっと、誰かの光だ。」のコンセプトのもと、2021年8月12日～24日に実施。
聖火フェスティバルとして、全ての都道府県で、採火（式）、集火（式）、出立式が行われ、
開催都市である東京都と、パラリンピック競技開催県である静岡県、千葉県、埼玉県では、聖火リレーも実施した。

静岡県開催　2021年8月17日（火）

静岡県の聖火フェスティバルは、パラリンピック開会式の1週間前、8月17日に実施した。
多くの人々の熱意を集めて聖火を生み出すため、県内全35の市町で採火。
それらの火を1つに集め、静岡県聖火を生み出す集火式を行い、
その火で聖火リレーを実施した。聖火ランナーがつないだ静岡県聖火は出立式を経て東京に送られた。



静岡県パラリンピック聖火フェスティバルの流れ（当初の計画）

採火式

県内全35市町で、地域の特色を生かした場所や方法で採火した。SLの窯の火から採火した島田市、特別支援学校の生徒が火起こしした掛川市など、各地がユニークな採火を行った。大会の成功や共生社会実現への願いを込めた35の火は、静岡市清水区の「日本平夢テラス」に集結した。

集火式

「日本平夢テラス」に集められた火をひとつにする集火式。各市町の代表者が、それぞれに採火した火の灯ったランタンを掲げると、35の火が1つとなり「東京2020パラリンピック聖火（静岡県）」として集火台に灯った。静岡県の聖火はランタンに移され、川勝知事から、落語家の春風亭昇太さん（静岡市出身）に託された。

聖火リレー

パラリンピック競技開催県である1都3県のみで実施された聖火リレー、そのスタートを飾ったのが静岡県であり、127人のランナーが聖火をつないだ。実施直前の7月3日に土石流災害が発生して甚大な被害を受けた熱海市と、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、まん延防止等重点措置の適用となった静岡市駿河区では、公道での走行を中止。ランナーたちは、浜松市の四ツ池公園陸上競技場内で実施した点火セレモニーに参加した。静岡県以外の1都2県では全ての公道走行が中止となったため、御前崎市および菊川市におけるリレーが、パラリンピック聖火リレーとしては全国で唯一の公道走行となった。

Runner Voice

県内全部の市町で採火して、その火をもらって走るなんて本当に素敵だと思いました。たくさんの人たちの思いに、ぼくたちの思いを乗せて、次のランナーにつなげることができて本当に良かったと思います。

長い年月をかけて築いてきたパラリンピックムーブメントに価値があり、人々の意識が変化したと思っています。このムーブメントが今後さらに深化するために、若い自分に何ができるのかを問い、大学生活を送っていきたいと思っています。

出立式

御前崎市・菊川市での公道リレーを経て浜松市でのリレーを終えた静岡県のパラリンピック聖火は、出立式により、開催都市東京都で開催された全国集火式（8月20日）に向けて送り出された。出立式は、県立横須賀高校郷土芸能部による県指定無形民俗文化財「三社祭礼囃子」の披露で幕開け。静岡県代表として、パラリンピアンの佐藤圭太さんが聖火の出立を宣言し、本県パラリンピック聖火フェスティバルを厳粛に締めくくった。

聖火ビジット

集火式で灯された静岡県の聖火が、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町、清水町、吉田町、川根本町、森町の10町に届けられ、役所や学校、公共施設、福祉施設を訪れる「聖火ビジット」が行われた。これにより、オリンピック、パラリンピック両聖火リレーを通じて、静岡県内全ての市町に聖火が訪れ、多くの県民に明るい光を届けることとなった。